

R



王金梅

日语诵读文选

中国科学技术大学出版社

S O N G D U

W E N X U A N



王金梅

日语诵读文选



中国科学技术大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语诵读文选/王金梅. —合肥:中国科学技术大学出版社,2005.6
ISBN 7-312-01791-6

I. 日… II. 王… III. 日语—语言读物 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 046070 号

日语诵读文选

王金梅

中国科学技术大学出版社出版发行

安徽省合肥市金寨路 96 号,邮编:230026

电话:3602905 传真:3602897

网址: <http://www.press.ustc.edu.cn>

中国科学技术大学印刷厂印刷

全国新华书店经销

开本:787mm×960mm 1/16 印张:10 字数:200 千

2005 年 6 月第 1 版 2005 年 6 月第 1 次印刷

印数:1—3000 册

ISBN 7-312-01791-6/H·354 定价:12.80 元

序

理想の日本語テキスト

大西 進

上海並びに周辺の大学などで日本語を教えている日本人教師たちが年に二回ほど懇親会を開いている。その席上、かならずといっていいほど出る話題はテキストのこと。そしていつもきまって、「いいテキストがないねえ」ということに落ち着くのである。日本人教師だけでなく、毎回少なからず参加する中国人教師も同じ思いをしているという。

これはどういうことか。既存のテキストにはどこか不十分なところがあるのではないか。学習者のレベルに合わない難解なものだったり、実用書にしては古い文例が多かったり、逆に新しいところはいいのだが質的にちょっとどうかと思われる文例を集めたものだったり……関係者の皆さんはそれぞれ苦勞なさっているのだろうが、それでもいいテキストを作れないでいるのは、どうも良質の素材に恵まれないからではないかと常々思っていた。

そんな折り、知人の王金梅先生が編集された『日語誦讀文選』の原稿を読んで、思わずひざをたたいた。「これだッ！これがテキストなんだ」。「日語誦讀文選」が待望久しきテキストたる所以を少しばかり述べさせてもらいます。

第一に、選択のバランスがよくとれている。日本の近・現代社会の諸相が偏

大西進：上海外国語大学日本文化经济学院外籍日语专家。

りなく紹介されている。たとえば、日本には地震・雷・火事・親父という言葉がある。怖いものを四つ列挙しただけのことだが、声に出して何度も読んでみると、日本語特有のリズム(七五調)があつて覚えやすい。それにしてもなぜこれら四強ならぬ「四恐」なのか。そのへんのところを本文中で筆者は「地震や雷は一瞬のできごとだ。火事も燃えてしまえばそれまで、あとあとまで恐ろしい思いをすることはない。おやじが怒るのも、母親がいつまでもぐちを言い続けるのとは違って、一度「バカッ」とどなればそれで終わりだ、という点では一過性と言えるかもしれない」と説得力ある説明をしている。

ちょっと古いところで小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の「むじな」が収められている。日本の怪談に新しい古典を作ったハーンだが、その怖さには、いまどきのホラーものも足元に及ぶまい。これを選んだ編者に敬意を表します。

そうかと思うと、いまだにブームが続いている血液型の話も登場する。日本人ほど血液型好きな国民もいないだろう。三人寄れば血液型が話題。人の品定めから運勢占いまで「うーん、あなたはA型だから……」といった調子でやってしまうのである。

このように取り上げていけばきりがないうほど、どれもおもしろく、ためになる。学習者の皆さんはひとつひとつ味読してほしい。

第二に、素材が粒ぞろいである。収められた文章はどれも、長すぎず短すぎず、平明で、それでいて卑俗にながれていない。そんな気品のある文章をそろえている。気品ある文章は美しい。日本語の美しさだけでなく、日本文化の香りを伝えてくれる。日本語を学ぶ学生、とりわけ学び始めの学生にとって、美し文章に接することができることは一生の幸せだろう。

第三に、写真が多くを語っている。日本の住まいの特徴である「濡れ縁」「雨戸」「戸袋」など、言葉だけではイメージのしようもない。その点、写真だと一目瞭然。つぎに、「交番」。昔も今も、地域の人たちに親しまれ頼りにされる「町のヘソ」だ。「古本屋」はたいていの日本人ならお世話になった記憶があるだろう。ラッシュ時の身動きもできかねる通勤電車の中でなぜサラリーマンは新聞や文庫本に読みふけるのか。中国など外国の人には理解できないでしょうが、答は

本文をどうぞ。

第四に、徹底的に親切な編集である。多くの語句に解釈をほどこしているのがそれだが、本文中では[1][2]などとしただけつけておき、各編の最後にまとめて載せているので、読みやすく理解しやすい。さらに、ほとんどの漢字にルビを振っているが、これもいい。日本語は同音異義語や同訓異字語が多いので、ルビがあると辞書を引いて調べやすく、学習のスピードは倍加する。編者の気配りが随所に見られ、手作りのぬくもりを感じる。

王金梅先生は私学の雄、同志社大学で数年間学んだ。最後はマスターコースの大学院生(修士学位取得)として、一貫して教育問題に取り組まれた。この間、母国で日本語を学ぼうとする人たちにどんな教材がいいだろうかとずっと考え続けていた。そして、感動したり、印象に残ったりした美しい文章に出会うたびに自分のコレクションに加えた。だから、ここに収められた文章のかずかずは、決して短時日の間に手当たり次第にかき集めたものではなく、一つひとつ、自分の感動というフィルターを通した「責任保証付き」のものばかりなのである。

中国の大学で中国語を専攻したという王金梅先生は、文法や語彙に一家言もっていらっしゃる。母国語を究めていないと外国語をマスターできないと言われている。その母国語の専門家が日本語に転進、想をあたためること九五年に母国の日本語教育現場に渾身の労作を提供した。『日語誦讀文選』は、なるべくして成った「理想の日本語テキスト」と言っても言い過ぎではないと思う。

2005 年春

序

理想的日语教材

大西 进

在上海及其周边大学从事日语教育的日籍教师每年都要举办两次联谊会。有关教材问题几乎是会上必议的话题,而且结果总还是那句话:没有好教材。不仅日籍教师,与会的不少中国教师亦有同感。

问题何在呢?是不是现有的教材尚存在某些不足之处?或艰深不符合学生的实际水平,或常有作为实用教材未免陈旧的范文等。一些有新意之处固然不错,其内容又令人难以满意……想必同仁们各自为此付出了不少努力,尽管如此,还是编不出好教材来,我总觉得那是因为无缘觅到高质量的素材。

在这样的状况下,我读了王金梅老师编的《日语诵读文选》的书稿,不禁拍案叫好,“就是它!这就是教材!”《日语诵读文选》作为期待已久的教材,我想简要地谈谈自己的几点看法。

第一,选材均衡。书中不偏不颇地介绍了日本近代和现代的各种社会现象。例如,日本有地震·雷电·火灾·老爷子的讲法。列举的这四样可怕的东西,若是放开声读上几遍,便能从声调读出日语特有的韵律(七五调),很容易记住。而且,为什么不是“四强”而是“四惧”呢?有关这方面的问题,作者在文中作了很有说服力的说明:地震和雷电是发生在瞬间的自然现象,火灾也是一旦燃尽就此完结,再没有什么好可怕的。老爷子发火不像老妈那样唠叨个没完没了,他只是大吼一声:“混帐!”再没有下文了。这一点,或许也可称其为“短暂性”吧。

时代离我们稍微久远些的作品、小泉八云(拉夫卡迪奥·哈恩)的《貉怪的故事》也收入在本教材内。在日本志怪故事中,哈恩创作的一些新古典作品就其恐怖程度而言,当今的恐怖作品也是不能与之相提并论的。在此,我向选择了哈恩作品的编者表示敬意。

此外,现在仍十分流行的血型论也在本教材中亮相。没有哪国国民比日本人更热衷于血型论吧,三个人凑在一起就会谈及血型问题。对于某人品格乃至命运的评估都是在诸如“噢,怪不得。因为你是A型血……”的论调中判得定论的。

上述事例举不胜举。总之,本教材入选的文章不仅有趣,而且有益于学习。希望诸位读者能一一细读玩味。

第二,素材精美。所收入的作品篇幅适中,通俗易懂却又不俗气,全是有品位的文章。有品位的文章是优美的,它不仅带给我们日语语言的美感,还让我们感受到日本文化的浓郁气息。对于学习日语的学生,特别是初学者来说,一开始就能接触到这样美的文章,也可以说是此生的幸运吧。

第三,以图片和插图作形象说明。具有日本民居特征的“濡れ縁”(拉门、拉窗外的狭走廊)、“雨戸”(保护拉门、拉窗用的套窗)、“戸袋”(存放套窗的框子、隔柜)等,仅凭语言难以描述,而有了图片和插图便可一目了然。接下来是“交番”(派出所),无论是过去还是现在,它都是辖区内民众心目中可亲可依的纽带。说到“古本屋”(旧书店),大凡日本人都有在那里得到过实惠的记忆吧。至于上下班营运高峰时间段里,工薪族为何要在挤得连身体都无法动弹的电车里埋头读书看报?中国及其他外国人对此也许难以理解,欲知答案敬请一读。

第四,满腔热忱地编注。编者对文中很多词句作了注释。先在原文中标上[1]、[2]这样的记号,然后在各篇文章后对所有标号的词句作了注释,这样便于阅读和理解。还有一个长处,就是文中的汉字一般都标了假名,这也很值得推许。因为日语中有许多同音异义词、异字而训读相同的词,有了注音既便于查字典,又能提高学习效率。书稿中随处可见编者的良苦用心,通过这本自编读物可感受到编者的满腔热情。

王金梅老师曾在日本著名的私立大学——同志社大学学习过数年,取得该大学的硕士学位,一直致力于教育问题的学习研究。留学期间也一直在考虑如何为国内的日语学习者编写合适的教材,于是便将自己以前读过、感动过、留有深刻印象的一些优美的文章收集起来,并加以整理。所以,《日语诵读文选》所收的各篇文章绝非短时期内信手拈来的凑合,而是经过认真负责地一一甄别和筛选的。

曾在中国攻读过中文专业的王金梅老师对文法、语汇有一定的研究。没有扎实的母语基础是难以学好外语的。王金梅老师1995年回国,决心再为祖国的日语教学而努力工作。

因此,称《日语诵读文选》是一本理想的教材我想也不算过分吧。

2005年春

前言

王金梅

这是一本日本文学作品阅读教材,其编写具有以下特点:

一、选材集中独特的文化现象

本书文章选自日本各大学、语言学校等教育机构编写的用于对外国人进行日语教育的中、高级不同阶段的教材和阅读资料。篇目的确定也是参照上述教材的编写方针,注意文化与文学并重。文化方面从价值观、道德观、职业观等方面入手,收集了对异文化感受比较独特、深刻的诸如血型论、父亲的威严、个人自由、重男轻女、忠于职守等内容。文学方面侧重于对日本文学作品的理解和欣赏,相应地集中了反映怀旧、思乡、亲情、友情等风俗民情的题材。

二、内容具体形象地反映生活

本书文章的内容非常贴近日本生活。从家中的“床”及其有关的“座敷”、“寝床”,“障子”及其有关的“雨戸”、“戸袋”、“カーテン”,“にわ”及其有关的“濡れ縁”……到户外的“神社”、“店”、“交番”、“鉄道”、“川”……都是居家、出行的真实写照。“車内風景”、“選挙運動”、“通夜と葬式”等等则是日常生活的情景特写。文章中这些具体形象的描写和相应的图片,给读者实实在在的氛围感受。

三、注音、注释便于诵读、理解

本书各篇中首次出现的汉字一般都加注了读音,开卷即可放声朗读。故本书冠名为《日语诵读文选》。但愿读者在诵读中感悟文章的内涵意境,事半功倍地达到阅读效果。

为帮助低年级学生自学入门,引导高年级学生深入思考,在各篇文章后作了短评,有的还附了作者简介。短评以介绍与原文有关的日本知识为主,力求对理解原文有所帮助,其中不乏编者作为一个外国人对异文化的感受。

注释大致分为语词、语法、事项三个方面。语词、语法等解释着重其在原文中的含义,为便于各阶段的学习者辨别、理解和复习巩固,对于容易混淆的助词、语法等以提示的形式作了重复注释。涉及政治、经济、历史、商业、交通、地理等的有关词语,作为事项说明作了注释。

因此,这是日本对外国人进行日语教育所使用的教材的浓缩本,为渴望掌握日语的学习者提供尝试机会。

借此机会感谢担任本书审阅工作的大西进老师,同时也向给过我指点和帮助的高尾稔、登坂勉、平塚昇二、名越修等日语专家表示由衷的谢意。限于本人水平,文中难免有不少错误,望专家、同仁以及所有的读者不吝提出宝贵意见。

2005 年 3 月

目 次

序 理想の日本語テキスト	大西 進	I
前言		Ⅶ
第 1 篇 祖父との散歩		1
第 2 篇 障子張りの作業		9
第 3 篇 暗いところ		17
第 4 篇 地震・雷・火事・おやじ		20
第 5 篇 郷愁		23
第 6 篇 盆と正月		27
第 7 篇 風土のにおい		32
第 8 篇 読書と青春		37
第 9 篇 二つの投書		41
第 10 篇 電車の中のプライバシー		45
第 11 篇 降ろしてください		51
第 12 篇 血液型		54
第 13 篇 どちらがいい——男の子・女の子		57
第 14 篇 沈黙の対話		63
第 15 篇 謎のロボット		69
第 16 篇 哀しい予感		74
第 17 篇 むじな——怪談		81
第 18 篇 障子の落書		87
第 19 篇 五つ木の子守歌		95

第 20 篇 猫が運んできた手紙	101
参考译文	114
与祖父散步	114
糊推拉门窗的劳动	115
暗处	116
地震・雷电・火灾・老爷子	117
乡愁	118
盂兰盆会和新年	118
风土的气息	119
读书与青春	120
两封来信	121
电车里的私人空间	122
请让我下去	123
血型	124
男孩、女孩哪个好?	125
沉默的对话	127
机器人之谜	128
伤心的预感	130
貉怪的故事	132
涂在拉窗上的画	133
五木摇篮曲	136
猫儿送来的信	139
选编书目	144

第 1 篇

祖父との散歩

私が子供だったころ、祖父はよく私を連れて散歩に出かけた。特にいつ、どこへと決まっているわけではない^[1]。好きなときに出かけるのであった。祖父は電気屋を経営していたから、ふつうのサラリーマンよりも^[2]自由な時間をたくさん持っていた。客の少ない時間になると、店の仕事を祖母や母に頼んで出かけるのだった。

「和夫、散歩に行くぞ^[3]。」

店のほうから家の中に向かって祖父の大きな声が聞えると、私は「はい」と返事をして、それまで^[4]していた遊びをやめて、さっと立上がる。初めは、家で遊んでいるほうがよくて、あまり行きたくなかったがそのうちに^[5]一日に一回は祖父の大声を聞かないと何となく^[6]落ち着かなくなった^[7]。なかなか祖父の声がしないので^[8]^[9]私のほうから店のほうへ見に行ったこともある。だから天気が悪かったり、祖父が忙しいそがしかったりして散歩がう止になった日は、とても寂しかった。

当時、東京にはすでに「交通戦争」という^[10]言葉があった。交番^[11]の前に

第1篇

そふ さんぽ 祖父との散歩

わたくしが子供^{こども}だったころ、祖父はよく私^{わたし}を連れて散歩^{さんぽ}に出^でかけた。特にいつ、どこへと決^きまっているわけではない^[1]。好き^{すき}なときに出かけるのであった。祖父は電気屋^{でんきや}を経営^{けいえい}していたから、ふつうのサラリーマンよりも^[2]自由^{じゆう}な時間^{じかん}をたくさん持っていた。客^{きやく}の少ない時間^{すく}になると、店^{みせ}の仕事^{しごと}を祖母^{そぼ}や母^{はは}に頼^{たの}んで出かけるのだった。

「かずお、散歩^{さんぽ}に行くぞ^[3]。」

店のほうから家^{いへ}の中^{なか}に向^むかって祖父^{おお}の大きな声^{きこ}が聞^{きこ}えると、私は「はい」と返^{へん}事^じをして、それまで^[4]していた遊び^{あそ}をやめて、さっと立^{たち}上^あがる。初^{はじ}めは、家^{あそ}で遊^{あそ}んでいるほうがよくて、あまり行^いきたくなかったがそのうちに^[5]一日^{いちにち}に一回^{いっかい}は祖父^{おお}の大声^{こゑ}を聞^きかないと何^{なん}となく^[6]落^おち着^つかなくなった^[7]。なかなか祖父^{おお}の声^{こゑ}がしないので^{[8][9]}私^{わたし}のほうから店^{みせ}のほうへ見^みに行^いったこともある。だから笑^{わら}気が悪^{わる}かったり、祖父^{おお}が忙^{いそ}いそがしかったりして散歩^{さんぽ}が^{ちゅう}止^しになった日^ひは、とても寂^{さび}しかった。

当時^{とうじ}、東京^{とうきやう}にはすでに「交通戦争^{こうつうせんそう}」という^[10]言葉^{ことば}があった。交番^{こうばん}^[11]の前^{まえ}に

交通事故によるその日の死亡者数やけが人の数が表示されるようになった^[12]のもあのころだったように思う^[13]。交通事故が社会の大きな問題として考えられ始めた時代であった。そういうこともあってか^[14]——本当の理由は分からないが——祖母や母は、祖父がまだ小さい私を連れて、散歩に行くのをあまりいいことだとは思っていないようであった^[15]。しかし、祖父はそんなことはぜんぜん気にしていない^[16]ようすだった。何と言っても^[17]祖父は私の家の家長であった。当時はまだ家長という考え方が少し残っていて、確かに戦前^[18]のそれに比べることはできないが、まだまだ大きな権力を持っていたのである。

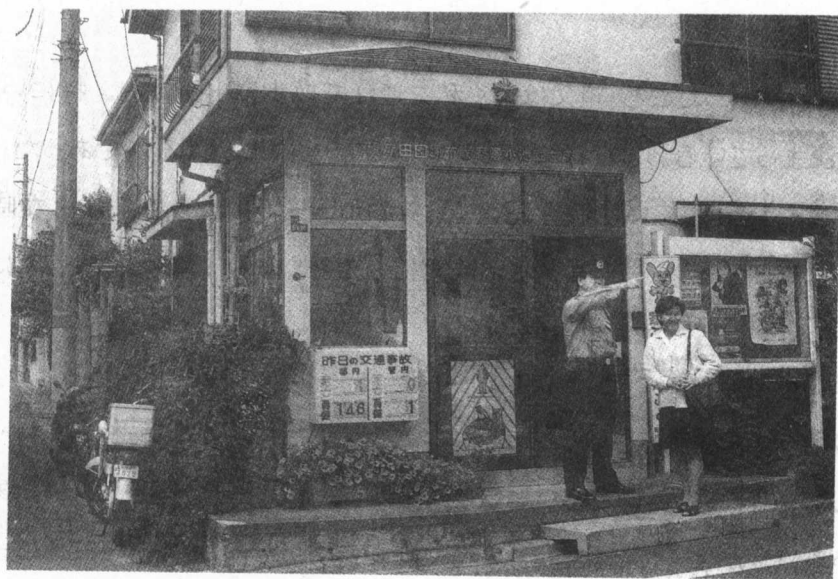


図1 交番

「交番」(警察局的派出所)多设在闹市区域,一般有两人值班。主要负责巡查分管地段,处理突发事件或交通事故。此外,还接待来访。

散歩は、山の手線^[19]のように^[20]家のまわりをまわるのが習慣で、必ず寄る場所というのがあった。祖父は歩きながら何を話したのだったか、もうすつ



图2 映画の看板

图为电影院的宣传招牌。日本的电影院入场券一般成人为 1800 日元左右,学生为 1500 日元左右。预售票还可便宜 300 日元左右。有时女性可享受半价优惠。东京的各电影院设有一月一次的电影日(「映画の日」),当日票价一律半价。

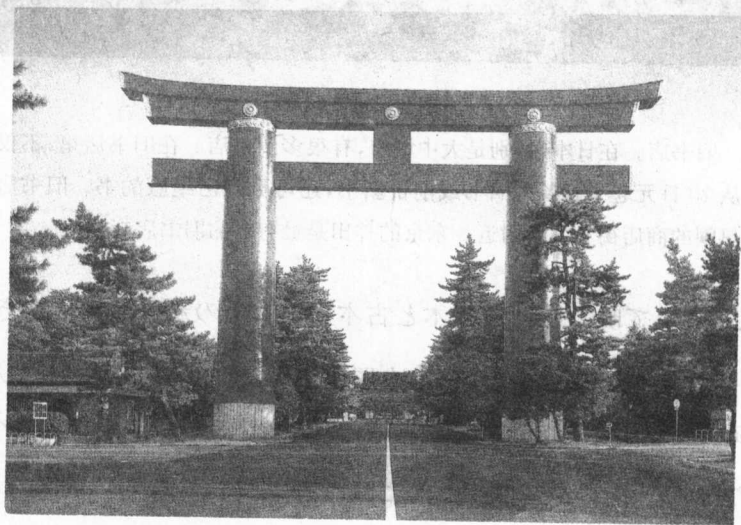


图3 神社
京都的平安神宫。

かり^{わす}れてしまっているが、散歩の途^{とちゅう}中に寄った場所だけは今^{いま}でもはっきりと
覚^{おぼ}えている。それは映画館の看板^{えいがかん かんばん}^[21]の前と、T 神社^{じんじや けいだい}の境内にある大きな櫓^{けやき}
の木^き^[22]下したと、古本屋^{ふるほんや}^[23]であった。古本屋では時々絵本^{ときどきえほん}^[24]を買^かってもら
った。

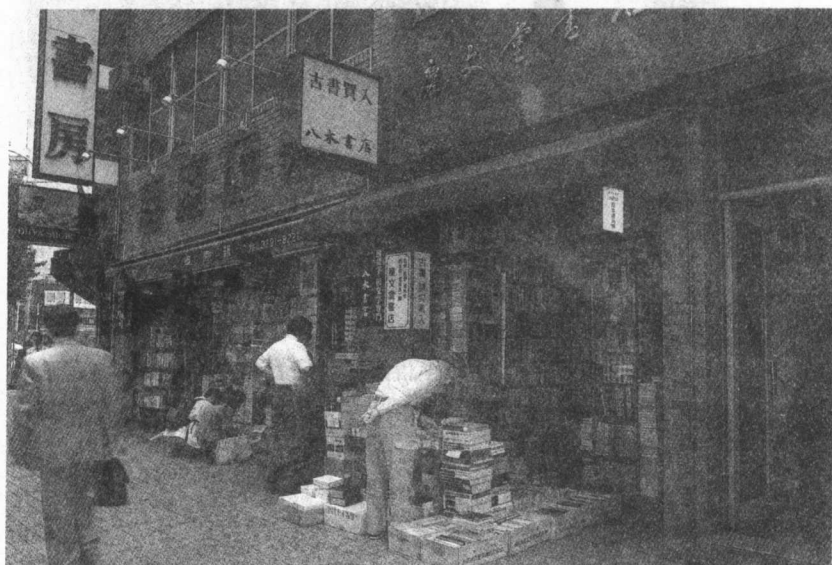


图4 古本屋

旧书店。在日本,特别是大中城市,有很多旧书店。在旧书店里,不仅可以
从10日元起买到各种旧书或削价新书,还可觅到已绝版的书。旧书店开
在热闹的商业街和大学附近。东京的神田是最有名的旧书店街。

しかし、どうして映画館と櫓の木と古本屋だったのか。祖父は歩きながら何^{なに}
も説明^{せつめい}してくれなかった。確かに古本屋は散歩道^{さんぽみち}として誰^{だれ}もが選^{えら}びそうな^[25]
ところであるが、祖父には、映画館の看板や櫓の木はそれほどおもしろいもの
ではなかったはずだ^[26]。祖父はほとんど映画を見に行かない人間^{にんげん}だったし、自然^し
ぜんの美^{うつく}しさ^[27]を大事^{だいじ}にする人間でもなかったからである。

祖父は、もう何^{なんねん}年も前^しに死^まんで、今^{いま}となってはその理由^{りゆう}を聞^きく方法^{ほうほう}はない。